

私の人生と読書

死ぬまでにとりより、一刻も早く読みたい、読まなくちゃと思っている本があるんです。それが、「シェイクスピア全集」(690〜780円 全37巻 白水社)です。

実は昨年、ベートーベンのピアノ・ソナタの全曲録音のCDをリリースしたのですが、演奏するにあたりベートーベンについて勉強したところ、彼はものすごい読書家で、哲学やシェイクスピアを読んでいたことを知ったんです。

確かに以前から、戯曲「リア王」とベートーベンには接点があると聞いていたり、リナタ17番が戯曲「テンペスト」に由来しているらしいことは知っていました。が、読んでいたという事。事までは知りませんでした。

となる

と、表現芸術の原点といわれ、現代に至るまでに多くの



仲道 郁代氏(ピアニスト)



シェイクスピアを読まずに音楽は語れない

響を及ぼしてきたシェイクスピアに、彼が影響を受けなかったはずがありません。

今回は残念ながら、録音するまでに通読は出来ませんでしたけど、32曲全曲を演奏してみても分かったのは、やはりシェイクスピアの影響を感じたことでした。

たとえば、晩年につくられた最後のソナタ(31、32番)は天国への階段に足をかけ、いざ天国に昇らんとする雰囲気と共に、まさにハムレットの名セリフ「To be, or not to be (生きべきか、死ぬべきか)」という感じがするんですよ。彼が最後に行き着いた境地ではないか、と思います

ね。

ベートーベンはシヨパンなど多くの音楽の基本にもなっている

ますから、そのベートーベンの思想の一部になったシェイクスピアを読まずして、音楽は語れないというくらいこの気持ちです。全戯曲をしつかり読み、考えたり感じたりした頭でベートーベンの曲、音楽に向かいたいと思っています。

(次回はひろさちやさん)